

核兵器禁止から廃絶へ！ 結成2周年記念集会

「ヒバクシャ国際署名岩手の会」は15日、岩手教育会館多目的ホールで「結成2周年記念集会」を開催。厳寒の中170人が参加しました。集会への連帯メッセージが達増知事、佐々木県議会議長をはじめ15首長、5議長から寄せられ、結成して二年、県民的運動の広がりを実感できました。日本政府へ禁止条約の批准を求める意見書採択が31市町村議会（約94%）になったこと、署名は15万4636人分を集約できたことが報告され、早期に20万筆突破へ確認し合いました。



—170人の参加者が、核兵器廃絶と県民運動の広がりを決意し合う—



日本被団協事務局次長の藤森俊希さんは、パワーポイントを使いながら基調講演をしました。藤森さんは、一才の時広島で被爆した惨状を紹介しながら、人類史上二度と許されない暴挙と動きだした国連や日本国憲法施行、被爆者運動などこれまでの草の根の運動が歴史を動かしてきたこと、昨年7月に核兵器禁止条約が国連で採択された場でスピーチした様子も紹介。その条約にも触れ、世論調査でも国民の6割が「日本は禁止条約に参加すべきだ」と答えていると指摘。今後の運動の大切さ、10月国連に830万筆届けたヒバクシャ国際署名の持つ意義も話されました。現在97カ国が署名、19カ国が批准。条約成立に必要な批准50カ国の見通しと国際世論、特に日本国内運動の重要性を強調。

今年8月、県内の高校や街頭で集めた核兵器廃絶署名を国連欧州本部のジュネーブに届けた様子を動画で報告。「戦争も震災も風化させないためには、知ることが大事」「私たちは微力だが無力ではない」との訴えに共感の拍手。



第21代高校生平和大使
阿部くるみさん
(不来方高校2年生)

11月20日、伊藤被団協会長を中心に遠野宮守地区準備会立ち上げの打ち合わせ会を3団体7人で持った。年明けに準備会をと決意表明。



遠野・宮守地区原水協
菊池裕也さん

—昨年12月結成以来の活動の経過と到達点を報告。署名が50万目標に対し15万3千(30.7%)。早期に20万筆を突破し、地域の会も作って県民ぐるみの運動をすすめようと提起。



県生協連
吉田敏恵さん

《参加者の感想17通の中から》

- 藤森さんの核兵器禁止条約批准に向けての長期間の粘り強い取り組みを詳しく聞くことができ、ありがたく思いました。なんとかして、実際に効力のあるものになる事を願うばかりです。高校生の海外での活躍もすばらしい。昨日、この会のことを知ったばかりでしたが、今日来て良かったです。
- 平和な暮らしは、当たり前のように与えられるものではないと改めて思いました。全世界から兵器が無くなることを願います。若い力に元気をもらいました。未来の子どもたちのためにも「微力だけど無力ではない！」共に頑張っていきたい。
- 国連決議第1号(1946)のこと、核兵器禁止条約のこと等、分っていそうで実は分っていなかった。国際基準で日本政府にプレッシャーをかけていく手法はないのでしょうか。それにしても、改めて現政権の冷たさを感じています。アメリカ言いなり(良くも悪くも)によって、ものを考えなくなった日本人、日本社会、このままでは閉塞感が増すばかりです。「微力だけでも、無力ではない」という高校生平和大使のお話は、改めて自分自身の行動の振り返りができました。高校生に負けないように、自分も頑張りたいと思います。
- 今まで、盛岡の街頭での、平和のための署名活動は何となく近づきにくい、内容をきちんと理解していないのに署名をしていいのか、という思いから遠くから見てるだけでしたが、核の廃絶、平和な世界のために、署名というアプローチが果たす重要性を感じました。これからは、学びつつ、共感する署名活動には積極的に参加していこうと思いました。
- 事実を淡々と説明されるだけでも強く心に来るものがありました。高校生平和大使、初めて知りました。頑張ってください。
- 核兵器禁止条約が世界的につくり上げられたことのスケールの大きさを改めて感じる事ができた。